

## 抗議文

内閣総理大臣 安倍 晋三 様  
防衛大臣 小野寺五典 様

本日午前、仲井真沖縄県知事が辺野古沖埋立申請について承認した、と報道されている。私たちは、このニュースに接し、怒りを禁じえない、札束と恫喝で知事に埋立承認を強要した貴職に、強く抗議する。

もともと辺野古への新基地建設を容認していた仲井真知事が、「県外移設」要求へと転換したのは、「これ以上の基地負担はご免だ」という思いが、沖縄の人々の大多数の「総意」となったという背景があるからだ。

沖縄県下全市町村と議会代表が、オスプレイ配備撤回・辺野古基地建設断念を求める「建白書」を総理に直接渡したのは、本年1月下旬のことだ。その後の1年間であなた方がしたことは、これほど明確になった沖縄の民意に真摯に向き合い、これまでの差別的な沖縄政策の転換を図ることではなく、米国にこびへつらって沖縄の声を踏みにじり、札束と恫喝で沖縄の人々の間に分断を持ち込むことだった。「まるで琉球処分官のようだ」と評された石波幹事長の、圧力に屈服させられた沖縄選出自民党国会議員5名を従えての居丈高な記者会見、自民党沖縄県連の方針転換で外堀を埋め、最後の仕上げが、仲井真知事に埋立を承認させたことだ。知事を東京に呼び寄せて事実上の幽閉状態に陥れ、札束で頬を引っ叩いて辺野古の埋立申請の承認を迫り、札束を積んだだけの、基地負担軽減の何の担保もない政府回答を「驚くべき立派な内容」と評価させ、「有史以来の予算」「私は（総理の）応援団」「よい正月を迎えられる」とまで言わしめた。仲井真知事に、「沖縄の世論に背いて、県が環境指針でランク1に指定した海域への新たな基地建設に同意した知事」という沖縄の歴史に残る不名誉を与えたと言わねばならない。

しかし、これほど露骨な沖縄差別政策の代償は、大きなものとなることを貴職は知るべきだ。総理は仲井真知事を屈服させて上機嫌になって、靖国参拝を挙行して、同盟国・米国の怒りを買って困惑していると伝えられているが、沖縄の人々の怒りは、それに倍するものとなって総理に浴びせられるだろう。すでに露骨な恫喝への反発が広がり沖縄の自民党は分解状態に陥りつつあり、沖縄の民意に背を向けて埋立承認を強いられた仲井真知事は、沖縄の人々に包囲され、孤立しつつある。

辺野古への新たな基地建設計画は、撤回するしかない。世界一危険な普天間基地は、即時閉鎖するしかない。軍事的にも合理化できない在沖海兵隊は、撤退すべし。欠陥飛行機オスプレイ配備は撤回し、高江のオスプレイパッド建設も自衛隊への購入も中止すべし。これらを米国政府に強く求めることこそ、日本政府が直ちになすべきことだ。

以上、抗議し、要請する。

2013年12月27日

沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座